

## 米国・KHRONOS グループ×VRM コンソーシアム 3D アバターファイル形式「VRM」の国際標準化に向けて協力・連携

一般社団法人 VRM コンソーシアム（代表理事：石井洋平、所在地：東京都中央区）は、同社が開発・提唱する 3D アバター向けファイル形式「VRM」の国際標準化に向けて、その基盤技術「Khronos [glTF™ 2.0](#)」を開発した The Khronos Group Inc.（President：Neil Trevett、所在地：アメリカ・オレゴン州／以下、Khronos）と協力し、相互運用可能な 3D アバターを実現するグローバルなオープン標準として、VRM と glTF フォーマットの開発を共同で進めていくことをお知らせします。

VRM (<https://vrm.dev/>) は、一般社団法人 VRM コンソーシアム技術委員長の岩城進之介によって提唱された、メタバース時代のインターオペラビリティ（相互運用性）を想定したプラットフォーム非依存型の日本発 3D アバター規格です。2018 年の誕生以来、メタバースコミュニケーションサービス「バーチャルキャスト」をはじめ、3D キャラクター制作ソフトウェア「VRoid Studio」やメタバースプラットフォーム「cluster」など、様々なアプリケーションやサービスに対応し、既に国内ではプラットフォーム間でアバター連携する際の事実上業界標準規格として広く使用されています。

VRM コンソーシアムと Khronos は、VRM のさらなる普及を目指して今年 1 月にリエゾン合意を締結し、これまで VRM に関する様々な情報共有を行ってきました。現在、両社は VRM の機能を Khronos glTF の公式拡張機能「Ratified Khronos Extensions」に統合する調整を進めています。glTF は高い拡張性を有しており、特に Khronos に承認された拡張機能の多くは幅広いプロダクトで採用され、glTF の更新時に glTF のコア仕様として取り込まれてきました。VRM についても同様に glTF 仕様として承認されることにより、日本国内に留まらず、世界中のメタバース業界において認知度が向上し、VRM に対応するサービスの増加を期待することができます。また、glTF 2.0 は ISO/IEC 規格（ISO/IEC 12113:2022）であり、VRM が Khronos glTF Ratified Extensions に採用されることで、VRM が ISO/IEC 規格として国際的に認知される道が開かれます。VRM が Khronos、さらには ISO/IEC に採択されることにより、長期にわたる規格の継続性と安定性が保証され、VRM のユーザー、クリエイター、デベロッパーは安心して VRM を利用・流通させることが可能になります。今後は両社間でさらに協議を進め、内容や時期などの詳細を確定していく予定です。

VRM コンソーシアムおよび Khronos は、VRM の国際標準化を通して国境のないメタバースを実現し、国内外問わずメタバース業界がさらに躍進できる環境作りに貢献してまいります。詳細については [vrm-consortium.org](http://vrm-consortium.org) および [khronos.org](http://khronos.org) をご覧ください。

### <「VRM」について>

VRM は、メタバース時代のインターオペラビリティ（相互運用性）を想定した、プラットフォーム非依存の日本発の 3D アバター向けファイル形式です。従来の 3D モデルとしてのテクスチャやボーンといった情報に加え、視線設定など一人称で操作するアバターに必要な情報を扱えるようにし、環境により異なるスケールや座標系などを統一することで、3D アバターがあらゆるプラットフォームで使用されることを想定しています。また、人が操作して人格を演じるアバターの特性を考慮して、このアバターを他人が使用しても良いか、暴力表現をしても良いか、などアバター特有の権利までもファイルに埋め込むことが可能です。現在はバージョン 1.0 を展開中です。

### <「VRM コンソーシアム」について>

3D アバター向けファイルフォーマット「VRM」の策定・普及を目的とした一般社団法人です。

- 【名称】 一般社団法人 VRM コンソーシアム
- 【設立日】 2019 年 4 月 24 日
- 【所在地】 東京都中央区銀座 4-12-15
- 【事業内容】 (1) 3D アバターモデルの統一規格「VRM」の策定  
(2) 「VRM」に関連する情報の収集および提供  
(3) 「VRM」の普及および広告宣伝

- (4) 「VRM」により創作される 3D モデルの法的保護に関する提言及び整備
- (5) 「VRM」に関する内外関係機関との交流および協力
- (6) 前号に掲げるもののほか、当法人の目的を達成するのに必要な活動

【役員構成】

代表理事	石井 洋平	(株式会社バーチャルキャスト)
理事	岩城 進之介	(株式会社バーチャルキャスト)
理事	大前 広樹	(ゲーム開発者)
理事	久保田 瞬	(株式会社 Mogura)
理事	清水 智雄	(ピクシブ株式会社)
理事	副島 義貴	(株式会社 N T T コノキュー)
理事	中川 直政	(弁護士 日比谷パーク法律事務所パートナー)
理事	松本 有啓	(株式会社 M O E グループ・ホールディングス)
監事	栗本 肇	(税理士、行政書士)
監事	佐藤 豊	(山形大学准教授(知的財産権))

【公式サイト】 <https://vrm-consortium.org/>

【会員のお申し込み・お問い合わせ】 VRM コンソーシアム事務局 : [vrmc-pr@vrm-consortium.org](mailto:vrmc-pr@vrm-consortium.org)

### <Khronos について>

Khronos は、業界をリードする 180 以上の企業が参加する非営利のオープンな団体で、3D グラフィックス、メタバース、拡張現実、仮想現実、並列プログラミング、ビジョンアクセラレーション、機械学習のための高度でロイヤルティフリー、さらに相互運用性のある標準規格を作成しています。Khronos の活動には、glTF™や OpenXR™、Vulkan®、WebGL™が含まれます。Khronos のメンバーは、Khronos 仕様の開発と進化を推進し、仕様のドラフトやコンFORMANCEテストの早期アクセスにより、先進的なプラットフォームやアプリケーションの提供を加速させることができます。